

せき損センターだより No.56

理 念

「受診してよかった」と思われる病院でありたい

基本方針

- 1 脊髄損傷の専門病院であることを自覚し、救命救急の初期治療から社会復帰まで一貫した医療を行います
- 2 患者さんの人権を尊重した医療を実現します
- 3 安全で良質な医療を行います
- 4 高度な脊髄損傷医療の普及に努めます

(潤野保育園園児の皆さん)



「当センターの役割」

整形外科部長 森 英治

夏の猛暑、残暑もやっと通り過ぎ、ひどい災害をもたらすことが年々多くなってきている台風が過ぎ去り、なんとかひと段落つけることが出来るように季節も落ち着きはじめている頃ではないでしょうか。この原稿を書いている季節は小さいオレンジ色の花を無数に咲かせ、「秋」の季語とされる金木犀が甘い芳香を漂わせ、過ごすには気持ちのよい日々となっています。

この時期から開花する花の一つに「シクラメン」があります。花言葉は「遠慮」、「気後れ」、「はにかみ」とされています。冬の花のイメージがありますが開花時期は10月から春にかけて長い間咲き続けてくれます。ヨーロッパでは豚がシクラメンの根を掘って食べることから「豚のパン」と呼ばれるため日本でも「豚の饅頭」の別名があります。また、別の和名の「篝火花（カガリビバナ）」は、シクラメンを見た日本の貴婦人が「これは“かがり火”の様な花ですね」と表現したことが由来のようです。「真綿色したシクラメンほど清しいものはない……」小椋佳の「シクラメンのかほり」でより一層みんなが知る所となりました。「シ（死）」、「ク（苦）」という語呂合わせから、病院へ見舞いにシクラメンを持っていくことは縁起が悪いとされています。一方で、シクラメンは次から次へと咲き続けるので家族の絆が深まる縁起の良い花ともされています。

怪我や病気で病院へ入院しなければならなくなった時ほど忘れがちな日頃の健康であることの有り難さや、自分を励まし支えてくれる家族の愛情を改めて感じるようになるのではないのでしょうか。脊髄損傷による四肢麻痺はある日突然一瞬のうちに患者さんを奈落の底へ突き落としてしまいます。また、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などの外傷ではない病気は、一瞬ではありませんが疼痛やしびれ、脱力にてやはり患者さんの生活の質を低下させてしまいます。このような脊椎の怪我や疾病に対して現時点で出来る最善の治療をせき損センターは行っています。もちろん患者さんにとっては当センターの治療結果に満足出来ない点多々あると思いますし、治療といっても限界があります。患者さんの望まれる状況に少しでも近づくことが出来るように、そのお手伝いをするのが我々の使命であると病院スタッフ全員が共有しております。今後もその使命を果たすために努力して行く所存でありますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



